

## 1. キャリア懇談会が開催されました ～生涯学習教育研究センターとキャリア支援センターの連携事業～

生涯学習教育研究センターでは、香川県教育委員会と平成16年3月に締結した協定に基づき、香川県内の指導者養成(「かがわ県民カレッジ」)を行っています。香川大学としては養成講座の最終段階となる「研究・実践講座」を担当しています。具体的には、学内の先生方の授業(専門科目)を開放していただき、体系的な学習の場に参加させていただくというものです。この研究・実践講座を修了された方々には「カレッジ・マスター」という称号を付与し、現在50名を超える方々が地域の指導者として各種委員や研修講師等でご活躍いただいています。

そのような学習経験をもち、地域での活動にも積極的に関わっているカレッジマスターと学生との「キャリア懇談会」を実施しました。これは現代GP(キャリア教育)の事業の一環として行ったものでもあります。現代GPの申請をする際に、伝統的學生を対象とはしない生涯学習教育研究センターにできることは何だろうかと考えたときに、学生のキャリア意識の醸成に多様な経験をもつ社会人学生との交流は一定の意味を与えることができるのではないかという発想からでした。一方で、大学と県教委とが連携して養成した指導者を積極的に活用する機会としても有効ではないかと考えました。

キャリア懇談会は18年度に合計3回実施しましたが、カレッジマスターとの懇談会は12月13日(水)12:30～15:30に実施しました。今回はこのレポートを中心にします。

今回ご協力いただいたカレッジマスターは女性5名でした。ひとつにはジェンダーの視点から女性のキャリア形成を見つめたいということ、つまりこれまでの社会で複線型(あるいは選択型)キャリア形成をしてきた女性にスポットをあて、懇談会を企画しました。女子学生には社会的な性差に直面する前に、女性としての自分の現在の、そしてこれからのキャリアについて意識してもらいたいという意図でした。カレッジマスターは、学生や学生の母親に近い年齢で30代前半から40代半ばまで、子育てを経験しており、職業は専業主婦、パートタイム、自営業、再就職してフルタイムと多様なステージにいる方に依頼しました。(大学の授業を受講できるという条件から、いわゆるキャリアウーマンや独身女性などは含まれないという限界はありますが、それは別の機会に譲ります。)

学生は「キャリアデザイン入門」の受講生を中心に28人参加し、家庭的な雰囲気の中、懇談が行われました。学生の感想としては「すごく参考になった」「結婚や育児など女性としてのキャリアについて聞くことができてよかった」「(カレッジマスターが)一方的に話すのではなく、こちらの話しも聞いてくださり、とても楽しく過ごせた」などがありました。

(文責:清國)



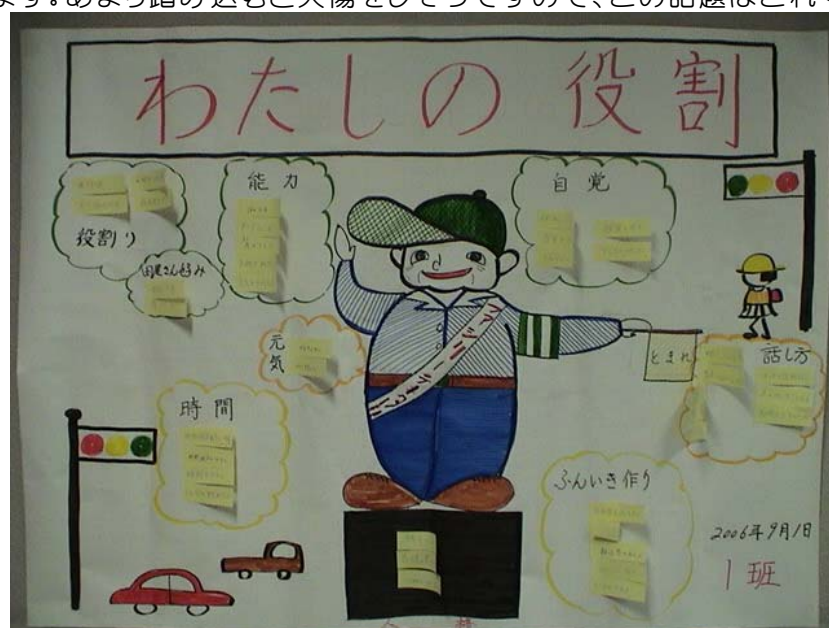
## 2. 参加型学習への誘い～専任教員の研究・実践紹介(1)～

過去のニューズレターで、成人教育の方法や社会人学生の調査結果を紹介してきました。今回はよりブラクティカルな学習支援方法について、私自身の研究と実践に基づきご紹介いたします。実際には社会経験の豊富な成人学習者を対象とした講座で実践しているものですので、学校知の中で過ごしてきた伝統的學生にそのまま当てはめることはできないことは予めお断りしておきます。

教育や学習支援の基本的な考え方は、いかにモチベーション(内発的動機)につながるインセンティブ(刺激誘導)を与えられるかにつきると考えます。留意しなければならないのは、内発的動機に展開しない刺激誘導は、さらに刺激への依存を高めるということです。子どもでいえば、「成績が上がれば欲しいものを買ってあげるよ」といった類で、努力とモノがイコールで結びつけられ、刺激誘導は結果的に刺激(モノ)がなければ努力をしなくなるか、不平不満がたまることとなります。自分で自分を制御することができなくなりますし、そもそも学習することの意味自体が見えなくなります。これは人間としてはあまり幸福な状況とはいえません。(拙稿「学習支援方法の諸相」鈴木眞理他編『社会教育の基礎』学文社2006)

子どもに限らず、私にも、あるいは私たちにも大なり小なりそのような傾向が見られます。大学は企業ほどではないにしても、ここ数年かなりの勢いで成果主義や評価主義が導入されてきました。仕事が数値化されるようになると、数値の信憑性よりも数値そのものに価値が移り、人の相対的位置がある意味はつきりしてきます。そうなればそれに見合う(と考えられる)対価を要求するようになります。一見、高いモチベーションによって動いているように見えますし、成果もあげているのですが、寄り道や回り道、無駄がないという意味では考えさせられます。あまり踏み込むと火傷をしそうですので、この話題はこれくらいにしておきます。

脱線しましたが、現在私が取り組んでいる参加型学習の中でも特に力点を置いているのがラベルワークとランキングです。ラベルワークというよりは、KJ法という呼び名の方が馴染みがあるという先生方も多いことでしょう。自分の考えやアイデア、調査データ、経験等をカードに書き出して、それを分類整理するというものです。川喜多二郎氏が開発したということでKJ法とも呼ばれていますが、登録商標ということもありここでは一般的な名称のラベルワークを使います。



その中で何を行っているかについては、紙幅と時間の関係で次のニューズレターに譲るとして、その成果の一例を示します。(文責:清國)

### センター雑感

今年度はセンター専任教員2人とも新設のキャリア支援センターとの併任となり、忙しくも、センター間の連携が進んだ一年でした。こういうときに限って原稿依頼も重なり、督促電話・メールに怯える毎日です。

さて、この4月からは組織再編により、当センターはアドミッションセンター、大学教育開発センター、キャリア支援センター、留学生センターと一緒に教育・学生支援機構の一部となります。センター教職員一同、気を引き締めて業務に励む所存です。今後もより一層のご支援のほど、よろしくお願ひします。(山本)